

2016年
9月

No.215

さざなみ

〒520-2141
大津市大江6丁目23-24

さざなみネット
(金融労連・全国金融産業労働組合滋賀分会)
TEL・FAX 077-545-5154

戦争法廃止・日米合同演習反対9・11あいば野大集会

日米共同訓練ただちに中止を 自衛隊員を戦地に送るな

9月11日、高島市今津町住吉公園で「戦争法廃止・日米合同演習反対あいば野大集会」が開かれました。あいば野での日米合同演習は1986年以降15回目となります。

2013年には事故を起こし続けているオスプレイが使われました。昨年7月には射撃訓練中に標的から外れた弾丸が民家の屋根瓦と天井を貫通するという非常事態が起き、地域住民の不安や抗議にまともに答えず強行しました。

集会には、滋賀・京都・大阪など近畿全府県や愛知などから780人が参加しました。さざなみネットからは4人が、滋賀銀行従業員組合の組合員や先輩組合員とともに参加しました。

沖縄の現状を報告された参議院議員伊波洋一氏、



金融労連・滋賀従組の旗のもとに集合



近畿各府県から780人が結集

衆議院議員宮本たけし氏の力強い訴えをうけ、リレートークもあり暑い残暑の中でしたが、

「ふるさとを演習に使わせない」と、恒例の「ふるさと」を合唱

モ行進しました。このような集会を開くことがないような世の中にしたいものです。(浦谷)
心配した雨の予報は外れ暑い日となり、公園の木立の影に入ったりして参加者代表の話を聞いた。組合の幟がなかなか届かずハラハラしたが、デモ行進出発前に組合からの参加者とともにパチリと証拠写真。780人参加のデモ行進はとても多く感じられた。ここに住んでおられる地元の人はどう思っておられるのか。現実はとても厳しく感じられた。(植木)

戦争法廃止 日米合同演習反対 9.11あい
主催：ふるさとをアメリカ軍に使わせない滋賀



マツムシソウ 岩波 美智子さん 画



住吉公園を出て、市内をデモ行進

「原発のうそ・ほんと」講演会

核=原子力に対してどう向き合うか 未来の子どもたちから必ず問われる

9月24日、長浜市の臨湖で「原発のうそ・ほんと」講演会が開かれました。元京都大学原子炉実験所助教の小出裕章氏が「原子力は何のために必要なのか？誤解と真実」と題して、フリーライターの守田敏也氏が「原発避難計画のうそ・ほんと」と題して講演されました。

幅広い約140人の市民が、さざなみネットから組合員が参加しました。わかりやすい話で、参加者は熱心に聞き入りました。

小出裕章氏の講演を一部紹介します。

原子力にかけた幻の夢

さて原子力を潜在電力として考えると、まったくとてつもないものである。しかも石炭などの資源が今後、地球上から次第に少なくなっていくことを思えば、このエネルギーのもつ威力は人類生存に不可欠なものといっていよう。

(中略) 電気料は二千分の一になる。

(中略) 原子力発電には火力発電のように大工場を必要としない、大煙突も貯炭場もいらぬ。また毎日石炭を運びこみ、たきがらを捨てるための鉄道もトラックもいらぬ。密閉式のガスタービンが利用できれば、ボイラーの水すらいらぬのである。もちろん山間へき地を選ぶこともない。ビルディングの地下室が発電所ということになる。

(1954年7月2日、毎日新聞)

- 電気料2000分に1 → 世界1高い
- 大工場を必要としない → 巨大工場
- 地下室が発電所 → 過疎地に押し付け



小出裕章氏と守田敏也氏によるトークセッション



小出裕章氏が講演

原子力緊急事態宣言はいまだに続いている

福島第1原子力発電所事故で発令された原子力緊急事態宣言は、今も続いており、熔け落ちた炉心が今どこにあるか分からない。ひたすら水を注入してきたが、放射の汚染水が溢れている。果てしない放射能の封じ込め作業と労働者の被爆。

事故がなくとも悲惨な原子

人間は核分裂生成物などの放射能核種を作ることができるようになったが、それを消す力を持っていない。原子力を利用すれば、ウラン鉱山から始まって様々な放射能のゴミを生む。その始末の方策を知らないし、特に高レベル放射性廃棄物は、100万年にわたって生命環境から隔離し続けなければならない。

歴史の強大な流れと個人の責任

かつての戦争のとき、大多数の日本人は戦争に協力した。大本営発表しか流されなかったし、戦争を止めることは誰にもできなかった。

福島第1原子力発電所事故が起き、そして戦争への道に落ちようとしている今、核=原子力に対してどう向き合うか、私たちは未来の子どもたちから必ず問われる。

現在のねっとりとするカステラと違い、きめが細かく歯ごたえと香ばしさがあり、現在のカステラほど甘味はなく、美味しかった。我が国に初めてカステラの製法が伝わったのは、室町時代にポルトガル船が長崎に入港した時である。



岩村城下町の風景

よい土産はないか探していたら、昔のカステラを発見した。岩村町の松浦軒のカステラは、200年前に岩村藩の藩医神谷雲沢が長崎に留学中に、製法を修得し帰藩、御用菓子師の松浦家に伝授され、今まで7代にわたって古風そのままに伝わっているという。

老人会の旅行で、岐阜県東郡市岩村城下町へ行って来た。なだらかで優しい東郡山と、岩村城跡に抱かれた町で、戦国時代から江戸、明治、大正、昭和と古い時代の変遷を楽しむことができた。



松浦軒のカステラ

ひひひ